



進路だより

令和7年度 第6号
令和7年 12月17日
島根県立大東高等学校
進路部 発行

特集:『大学入学共通テスト』と大学入試



＜大学入学共通テストとは…＞

① 大学入学共通テスト(以下「共通テスト」と略記)は大学入試の1次試験

共通テストは各大学が独立行政法人「大学入試センター」と共同で実施する試験です。毎年1月に13日以降の最初の土・日曜の2日間に全国で一斉に実施される日本最大規模の試験です。今年度は1月17日(土), 18日(日)に行われます。国公立大学の一般選抜受験者は、原則共通テストを受験しなければなりません。また、ほとんどの国公立大学では個別学力検査、いわゆる2次試験があります。共通テストに参加している私立大学や短大では、共通テストだけの成績で合否を判定する方式や共通テストと個別学力検査をあわせる方式、そして個別学力検査のみの方式の3つがあります。

② 今年度(2026年度入試)共通テストを受験する人は49万6,237人

志願者数は前年度より現役生は5,657人減となったものの既卒者が6,336人増と大幅に増加しました。また、今年度からWeb出願が導入され、受験票の印刷など受験生自身が行うことになるなどいろいろと変更点があります。詳しくは大学入試センターのホームページを確認してください。

③ 2日間で実施され、1日目は文系教科、2日目は理系教科(右の表参照)

④ 解答はマークシート方式で、7教科合計1000点満点

文系:国語(200)、数学(100×2)、英語(200)、地歴・公民(100×2)、理科(50×2)、情報(100)

理系:国語(200)、数学(100×2)、英語(200)、地歴・公民(100)、理科(100×2)、情報(100)

※英語はリーディング(100点)、リスニング(100点)の合計200点

基本的には上記のようになりますが、大学によって特定の科目の配点が大きくしてあるなど傾斜がかけてあったり、受験科目が限定されてたりすることもありますので、各大学の募集要項で確認してください。

⑤ 各教科・各科目とも教科書で扱われている基礎・基本的な事柄を中心に出題される。

⑥ 国・数・英の出題範囲の学習は基本的に2年次までに終了する。

⑦ 大東高校の生徒は島根大学松江キャンパスで受験する。

共通テストは基本的に英語・数学・国語は1・2年生の教科書の内容から、理科・地歴・公民も教科書の内容から出題されます。しかし、全体的に知識や解法の暗記のみで解答できるような問題は減少し、より理解の質が問われ、「思考力」「判断力」を發揮して解くことが求められる問題が出題されています。また、グラフ・地図・文章など読み取る資料の分量が多いことが特徴で、授業における学習場面、日常生活の中から課題

を発見して解決方法を構想する場面、資料やデータをもとに考察する場面など、学習過程を意識した場面設定が教科・科目を問わず見られます。平素から家庭学習と授業を大切にして、基礎学力を定着させてていきましょう。

試験日	試験教科・科目		試験時間(分)
1/17 (土)	地理歴史 公 民	「地理総合、地理探究」 「歴史総合、日本史探究」 「歴史総合、世界史探究」 「地理総合／歴史総合／公共」 「公共、倫理」 「公共、政治・経済」	2科目選択 9:30~11:40 (60分×2(+10分)) 1科目選択 10:40~11:40 (60分)
		「国語」	13:00~14:30 (90分)
	外 国 語	「英語」	【リーディング】 15:20~16:40 (80分) 【リスニング】 17:20~18:20 (試験自体は30分)
1/18 (日)	理 科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	2科目選択 9:30~11:40 (60分×2(+10分)) 1科目選択 10:40~11:40 (60分)
		「数学Ⅰ」「数学Ⅰ、数学A」	13:00~14:10 (70分)
		「数学Ⅱ、数学B、数学C」	15:00~16:10 (70分)
	情 報	「情報Ⅰ」	17:00~18:00 (60分)

3年生

共通テストまであと1か月、まだまだ伸びる!

○大学の願書は取り寄せましたか?

まだの人は至急テレメール等で取り寄せましょう。国公立大学の出願締切は、前期・中期・後期日程のいずれも2月4日(水)です。共通テストまでには出願する可能性のある大学すべての願書を必ず取り寄せておきましょう。

○毎日勉強頑張っていますか?1点でも多く取るために…

まだ1か月あります。最後まであきらめずに頑張りましょう。焦りは禁物。冷静に自分が点を伸ばせる部分はどこか?それを見極めて取り組んでいきましょう。

○不安を克服するには努力しかない。

自分を支えてくれるのは「一生懸命やった!」という自信です。

○授業でやった内容や、今までの模試やマーク演習で出題された内容を見直そう。

解けなかった問題を見直して、しっかり理解し、解けるようにしておきましょう。

○本番をベストコンディションで受けよう。

ラストスパートをかけるべき時ですが、無理は禁物。栄養と休養は絶対に欠かせません。試験日をベストコンディションで迎えられるように、手洗い・うがい・防寒対策など体調管理のためにできることはすべてやっておきましょう。また、当日は朝から夕方遅くまで試験が続けます。「リラックスした状態」から「集中した状態」への切り替えを意識して生活していきましょう。

○すでに進路が決まった人はこれから受験を控えている人を応援してあげましょう。

受験に集中できる雰囲気や環境を周りの人が作ってあげることも大切です。協力しましょう。

一般選抜

近年、総合型選抜や学校推薦型選抜の募集人員枠が拡大していますが、国公立大学については依然として一般選抜の募集人員枠が全体の約8割を占めています。

国公立大学の一般選抜は、「共通テスト」の得点と、大学別に実施される「2次試験(個別学力検査)」の得点の合計で合否を判定するケースが一般的です。国公立大学志望者は、1月中旬に実施される「共通テスト」を原則受験します。自己採点を行った後、志望する大学に願書を提出します。注意したいのが国公立大学の出願期間です。出願期間は、共通テストの約1週間後からスタートし、約10日間となっています。思うように得点できなかった場合は、当初考えていた出願校を変更しなければならなくなることもあります。出願時になって慌てないよう事前に複数の候補を挙げておくことが必要でしょう。

私立大学の一般方式は、おもに2月初旬～中旬にかけて行われます。入試科目は大学によりさまざまですが、文系学部は英語・国語・地歴公民または数学から3教科、理系学部は英語・数学・理科の3教科を課すパターンが一般的です。また、共通テストの成績を活用する「共通テスト利用方式」多くの大学で導入されています。共通テスト利用方式では、大学独自の試験を課さず共通テストの結果だけで合否を決定するケースが一般的です。つまり、共通テストさえ受験していれば、大学へ赴くことなく私立大学の併願が可能となります。国公立大学を第1志望としている受験生にとっては過度な私立大学の受験対策が必要なくなります。

学校推薦型選抜

「学校推薦型選抜」は一般選抜と並ぶ大学入試の柱の一つです。一般選抜との一番大きな違いは、出身高等学校長の推薦を受けないと出願できない、という点です。出願にあたっては、「調査書の学習成績の状況○以上」「○浪まで」といった出願条件が設定されている場合もあり、誰もが出願できる入試というわけではありません。学校推薦型選抜は、様々なタイプの選抜がありますが、大きく分けて「公募制」と「指定校制」の2タイプに分かれます。「公募制」は、大学の出願条件をクリアし、出身高等学校長の推薦があれば受験できる選抜です。一方の「指定校制」は大学が指定した高校の生徒を対象とする選抜ですが、すべて私立大学です。また近年、公募制では、他大学との併願が可能な併願制も増えてきていますが、指定校制では「出願者は、合格した場合は必ず入学する者に限る」専願制の入試となっています。

国公立大学では全体の9割以上の大学が学校推薦型選抜を実施していますが、私立大学に比べて募集人員が少なく、出願条件のうち「学習成績の状況4.0以上」など厳しい成績基準を設けている大学があるほか、1高校からの推薦人数が制限される場合は校内選考を行います。また、国公立大学の場合は、共通テストを課す場合と課さない場合の2タイプに大別され、その入試日程も大きく異なります。小論文など受験者自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法のほか、プレゼンテーション、口頭試問、実技、教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績、共通テストなど、学力を確認する評価を実施することが必須となっており、国公立大学では共通テストを課す大学が多くなっています。また「面接」「小論文」を課す大学も多く、口頭試問を含んだ面接や学科に関連した専門的知識を要する小論文が課されることも珍しくありません。

私立大学の学校推薦型選抜は、入学者比率が40%以上を占めています。選抜方法は、小論文や適性検査、面接、基礎学力試験、調査書等の書類審査をさまざまに組み合わせて選考されています。近年は適性検査や基礎学力検査といった名目で学力を測る試験が行われている大学も目立っています。

総合型選抜

総合型選抜とは、エントリーシートなどの受験生からの提出書類のほか、面接や論文、プレゼンテーションなどを課し、受験生の能力・適性や学習に対する意欲などを時間をかけて総合的に評価する入試方式です。他の入試方式と比べると、「高い学習意欲」「学びへの明確な目的意識」が選抜基準として重んじられているため、選抜方法もその点が判断できるような内容となっています。出願時に受験生自身が作成して提出する書類が多いことも特徴です。学校推薦型選抜と同様に、各大学が実施する評価方法に、共通テストを含む教科・科目に係るテストや小論文、プレゼンテーションなど、学力を確認する評価方法を活用することが必須となっています。

国公立大学の総合型選抜では、出願9～10月、合格発表11～12月上旬といった入試日程が一般的です。出願条件は、「学習成績の状況」の成績基準がなかったり、高卒生でも出願できるなど、学校推薦型選抜より緩やかな場合が多いです。選考方法は1次:書類審査、2次:面接(プレゼンテーションも含む)・小論文といった選抜型タイプが一般的です。このほか、セミナーやスクーリングなどに出席してレポートを提出させるといったものもあります。また、基礎学力を測るために、共通テストを課す大学は増加傾向にあります。総合型選抜は一般選抜や学校推薦型選抜に比べると、大学が選抜に時間をかける分、受験生側にも労力がかかります。また、出願時に提出物も多岐にわたる場合が多く、事前準備が他の選抜以上に多いことも特徴です。受験を考える人は早い時期からの対策が必要となります。

私立大学の総合型選抜の選抜方法はバラエティーに富んでいて、同じ総合型選抜という名前でも大学によりかなり違いがあります。多くの大学で行われているのが対話型の総合型選抜です。エントリー後、事前面談、予備面談なども含めて複数回面談を行い、出願許可されると合格内定を得ることができます。このタイプの総合型選抜は、大学・学部への適性や学ぶ意欲がより一層重視されます。総合型選抜は他の選抜より早期に実施されるため、早い時期に志望校を決定しなければなりません。また、その入試の趣旨から出願校=第1志望校となりますので、安易な受験は禁物です。自分の進路・適性をしっかりとと考えたうえで受験しましょう。

今後の主な進路関係の行事を含む予定

1/20(土)・21(日)	北予備ファイナル(会場:島根大学) ※北九州予備校主催の共通テスト対策模試
1/22(月)	2学期終業式
1/23(火)～25(木)	3年冬季補習
1/6(火)～7(水)	3年マーク演習③
1/8(木)	3学期始業式
1/9(金)	共通テスト受験者説明会
1/14(水)～16(金)	3年学年末試験
1/17(土)・18(日)	共通テスト
1/19(月)	共通テスト自己採点、 1年進研学テ
1/19(月)・20(火)	2年進研学テ
1/22(木)～2/20(金)	3年特別講座
2/6(金)～7(土)	2年進研M ※「M」は「マーク模試」を意味します。
2/19(木)～25(水)	1・2年学年末試験
2/25(水)～	国公立大学2次試験(前期)
3/1(日)	卒業式
3/8(日)	国公立大学2次試験(中期)
3/11(水)	1年スタディーサポート②
3/12(木)～	国公立大学2次試験(後期)
3/17(火)	1・2年進路ガイダンス
3/24(火)	3学期終業式

